

山の日制定記念 企画展 立山の文化財 ―類いまれな自然と歴史―

2016年7月16日(土)～9月25日(日)

立山連峰はおよそ500万年におよぶ成り立ちの先に、表情の多様性を獲得しました。その長い時間の中で、火山や地震の活動、気候変動などの営力が働き、独特の地形と環境、生態系を生み出したのです。その風土に魅せられた先人は、立山に固有の価値観を見出し、今に伝わる多くの風習や文化を残すに至っています。

この企画展ではそうした立山の成り立ちの面影を色濃く残した記念物や、今日の風土との関わりの深い文化財について焦点を当てて紹介しました。立山室堂はその代表的な文化財で、建築物として最高所に所在する重要文化財でもあります。立山連峰は神々の住まうとして万葉集に詠われ、後に信仰の山として清冽な水の景観と熱煙立ち込める火山の光景とともに極楽地獄の世界観を体現するものとして、平安時代から全国に知られ、日本人の他界観に影響を与えたのです。こうした人々の深い畏敬の念を背景として、立山室堂は立山権現を参籠するため加賀藩によって建設された国内最古の山小屋建築であり、厳しい自然条件に対応する太い柱や厚い板などを備えつつ宗教性を帯びた豪壮な構造となっています。

展示を通じて、こうした立山の自然と文化の関わりや希少な価値について深く知っていただき、立山により興味を持っていただけたものと思います。



